

## 2024年度(2024年1月1日～2024年12月31日)事業報告書

特定非営利活動法人 アジア教育友好協会

2024年度は、アジア教育友好協会(以下 AEFA) 設立 20年の節目の年でした。アジアの主に山岳地域少数民族の子どもたちのための教育支援に取り組んできた活動を今後もさらに継続、拡大してゆくため、交流事業を中心に新たな取り組みに挑みました。ベトナムのパートナー NGO Children School Development(以下、CSD)代表アインさん、ヒウさん、マイホアさんを招聘し、日本各地で交流の機会を持ちました。東京では「第15回AEFAフォーラム」を開催しました。現地の動き、CSDの思いや考えを直接伝え、受けとめる機会となり、AEFA 会員だけでなく初めて AEFA を知った方も含めて 90 名にご参加いただきました。東京と大阪では、長年にわたりご寄付いただいていた組織を訪問し、お互いの理解を深めることもできました。山形県では、国際理解や多文化共生に取り組む山形県 IYEO 及び在山形ベトナム人協会(MSY)との協働によって、図書館をテーマにワークショップを多様な国籍と世代を含む 80 名の参加で開催することができました。ワークショップの開催だけではなく、学校訪問やホームステイも経験し、CSD メンバーにとっては日本に対する理解を深める機会となりました。また、AEFA にとっても新たな仲間づくりの可能性が広がりました。市民社会組織として、世界の課題、日本の課題、私たちの課題に丁寧に向き合い、一緒に活動できる可能性をさらに模索していきます。

ラオスでは、これまでのプロジェクトの中でも最も山奥にあるアクセスが困難な山岳少数民族の村の子どもたちのための学校建設(ラロ小学校)に取り組みました。この村は入村規制も厳しく訪問しづらいためなかなか支援が決まりませんでした。ラロ小学校の建設資金は、企業・組織・個人・学校といった多くの皆様からお預かりする、具体的なプロジェクトを指定しないご寄付を積み上げて、実現することが出来ました。どんなにアクセスが困難であっても、支えを必要とする子どもたちに思いを届けることはAEFAの活動の原点です。今後も、より多くの皆様からの理解と賛同をいただいて、子どもたちの学びがよりよいものとなっていくよう、活動してまいります。

ベトナムでは、これまでのプロジェクトの経験と知見を活かして、教育支援プロジェクトをさらに充実させることができました。しかし、その一方、引き続き、政府の反腐敗運動の影響で、AEFAのような海外からの支援プロジェクトに関する行政の許認可は更に時間がかかっています(現時点では申請から許認可を得るまで約10か月)。必要とされる書類の内容等も複雑になってきましたが、さらにCSDと連携して手続きを進めていきます。

また、気候変動の影響によって、9月にはベトナム北部に数十年ぶりの大型台風が直撃し、甚大な被害が出ました。これまでのAEFAプロジェクト校の被害状況について、CSDを通して把握しました。人的被害はまったく無かったものの、施設の損壊や本や教材が使えなくなっ

てしまったことが明らかとなり、現地の復旧・復興のための寄付を呼びかけました。この呼びかけに応えてくださった方々のおかげで、被害を受けた学校に迅速に支援を届けることができました。

スリランカにおいても、学校建設は順調に進んでいます。ご支援いただいた方々の現地への訪問、新しい学校竣工後の開校式での交流は、現地の子どもたちにとっても、日本と日本人を深く知る、国際交流、相互理解の貴重な機会となっています。ベトナム、ラオス、スリランカなどのそれぞれの現地との交流をさらに深め、草の根NPOならではの人と人のつながりの輪を広げていきたいと思えます。

学校建設は、2023年中に申請し2024年に許認可がおりて着工・竣工した2校を含む6校が完成し、合計341校となりました。図書館は6館(建設中を含む)で、合計38館となりました。また、新たに開始したものを含めて、様々な教育支援プロジェクトも継続しています。2024年も円安が続き、また、現地のインフレーションも続いていて、一件あたりのプロジェクト費用は上昇していますが、現地の状況について深くご理解いただけるよう、ご支援頂いている方々との丁寧かつ細やかなコミュニケーションと報告を続けています。

組織運営の面では、2024年4月より、経理業務の一部を「わたす研究所」(秋田県山本郡藤里町)に委託しています。外部組織との連携と協働により、経理や資金の動きの透明性をさらに高めるとともに、事務局の負担の集中の軽減にも努めていきます。

## 1. 事業の概況および成果

### <建設事業(海外事業)>

今年度の学校建設の実績は、ベトナム(2校)・スリランカ(3校)・ラオス(1校) 合計6校(表1参照/竣工確認済)となりました。ベトナムの2校は、2023年に許認可申請していたものです。

ご支援頂いた方々が参加して行う開校式・開館式が本格的に再開しました(ベトナム5館・スリランカ2校・ラオス2館)。AEFAプロジェクトの特徴である参加型で、子どもたちはもちろん現地の教育関係者や先生たち、シスター(修道女)、保護者や地域の方々も一緒にダンスや歌や交流アクティビティを楽しみました。日本の人を見るのは初めてという人が殆どで、お互いを知る第一歩です。共に過ごしたかけがえのない思い出は、学校や図書館そのものとプラスして、もう一つのギフトになっています。

(表1)2024年度建設校一覧

	国名	地域	学校名	支援者(敬称略)
1	ベトナム	トゥエンクアン省	チュンミン半寄宿小中学校 (Trung Minh)	一家恵理
2	ベトナム	バクザン省	ドンマム分校 (Dong Mam)	一家恵理
3	スリランカ	西部州	ホーリーエンジェルス女子学校 (Holy Angels)	エルセラーン1%クラブ
4	スリランカ	南部州	オスウィンナ小中学校 (Osuwinna)	エルセラーン1%クラブ
5	スリランカ	南部州	ランミヒタンナ小中学校 (Ranmihithanna)	一般寄付
6	ラオス	サラワン県	ラロ小学校 (Raror)	株式会社サンエルホーム、跡見学園中学校高等学校、株式会社近江兄弟社、リアンコーポレーション、匿名希望他一般寄付

これにより、AEFAの事業開始以来20年間の学校建設の累計は341校(ベトナム186校、ラオス121校、タイ15校、スリランカ15校、中国2校、ネパール2校)となりました。

各地域における教育支援プロジェクトの概要は表2のとおりです。

図書館は、累計38館(ベトナム30館・ラオス8館)となりました。(建設中を含む)

ベトナムでは、学級文庫の設置と読書活動の「BookWorm(本の虫)」プロジェクトが始まりました。また、台風ヤギ被害への緊急支援として、レインボーライブラリーの屋根の修復や、本・教材等の支援を行いました。

ラオスは経済危機が長期化し、生活の為に、学校を離れて出稼ぎにいかざるを得ない教員も増えています。こうした現地の事情を踏まえ、教員の就業環境を改善し、学校への定着のインセンティブとなるよう、教員寮を建設に向けて準備を進めています。

(表2)2024 年度教育支援プロジェクト一覧

	支援プロジェクト	支援者(敬称略)
ベトナム		
1	レインボーライブラリー (ドンティエン小学校)	特定非営利活動法人 Shared Smile Japan
2	レインボーライブラリー (バンヴェン分校)	一般社団法人ゼブラ社会貢献支援協会 (ZESCO)
3	レインボーライブラリー (ヴァンフー小学校)	一般社団法人ゼブラ社会貢献支援協会 (ZESCO)
4	レインボーライブラリー (ドイホン分校)	エルセラーン1%クラブ
5	レインボーライブラリー (ティエンタン小学校)	エルセラーン1%クラブ
6	BookWorm本の虫(読書活動) (イエンニン分校)	横浜幸銀信用組合
7	台風ヤギ 緊急支援 (カムリⅡ小学校、スアンバン小学校、 アンラック分校、コンダ小学校)	吉田敦男
ラオス		
8	奨学金・先生基金	小牧修、西尾真、小林弘英、田宮雅子、中村洋子、国際ソロプチミスト伊勢原、他一般寄付
9	図書館 (スクサムパン中高校)	エルセラーン 1%クラブ
10	水プロジェクト(井戸・浄水器) (スクサムパン中高校)	吉田敦男
11	教員寮 (ナボーン中高校)	株式会社フォーサイト

各国の状況および取組みについては以下のとおりです。

### ベトナム

ベトナムは政府による反腐敗運動の影響が続いていましたが、国家主席の交代による行政の変革が続いています。これらの影響によって、AEFAのように海外からの支援プロジェクトの許認可に更に時間がかかっています(現時点では申請から許認可を得るまで約10か月)。また、行政手続きの内容も複雑化しています。こうした状況下においても、子どもたちに充実した学びを出来るだけ早く届けるため、ご支援頂く方々にも丁寧に現状を説明してご理解を頂き、プロジェクトをまとめて年初に申請し、結果として、秋に許認可を取得することができました。

2024年度の学校建設は、2023年中に許認可申請していた2校 東北部トゥエンクアン省 チュンミン半寄宿小中学校の教室増設と、バクザン省山岳部のドンナム分校を完成することができました。

レインボーライブラリー図書館は、これまで継続的に活動していたトゥエンクアン省のヴァンフー小学校に加えて、新しい地域であるバクザン省イエンテー郡の3校で開始しました。これは、レインボーライブラリープロジェクトのよい評判を聞いたイエンテー郡の学校の先生たちから、ぜひ自分たちも参加して子どもたちの学びを充実させたいとの強い希望があり、実現したものです。先生たちが教育熱心なだけあって、12月に行われたイエンテー郡ドンティエン小学校の開館式では、子どもたちが、開館式に参加した日本人に英語で積極的に話しかけてくるなど、これまで以上に活発な交流となりました。

レインボーライブラリーの読書啓もう活動はのべ7館において進められ、毎月の活動報告をご支援いただいた皆様に報告することができました。2023年9月新年度開始と共に読書啓もう活動を開始した3館を、ご支援いただいた方々が1月に訪問して開館式と交流会を行いました。数時間の交流を通して、少数民族の子どもたちが積極的に発言したり活動に参加したりする変化の様子に、先生もCSDも驚いていました。

1年間の読書啓もう活動の締めくくりとして行われた5館(タインホア省ルンカオ校、バンコン校。トゥエンクアン省ニンライ校、コンダ校。バクザン省カムリII校。)のクロージング・セレモニーには、ご支援頂いた方々もオンラインで参加しました。子どもたちのダンスや演劇のパフォーマンスを見守ったり、お互いに質問し合ったりしました。最初はおもいおもうでしていた子どもたちも、開館式で直接会って交流した写真を共有するうちに元気になり、素朴な質問やメッセージを次々と発言し、お互いに楽しい交流の機会となりました。また、イエンニン分校では「BookWorm(本の虫)」読書活動のプロジェクトが始まり、活動開始のセレモニーにはご支援頂いた方々もオンラインで参加して交流しました。

レインボーライブラリーは、読書活動のほか演劇・ダンス・体操、お絵描きやメッセージカードの制作、STEM実験など、授業以外の多様な活動ができる場となっています。意欲的な先生たちの教育により、子どもたちは多様な新しい経験をしています。2018年に第1館目を始めてから、プログラムを企画・運営するCSDも経験を積み重ねてきました。冒頭に示したとおり、今夏にはCSDが日本を訪れ、山形県立図書館、県内の小学校の図書室を実際に見て、また、運営している方たちの話を聞くこと、さらには、フォーラムやワークショップでの経験や学びを活かして、AEFAとCSDは協力して今後も活動を進化させていきます。

2024年9月数十年ぶりにベトナム北部を直撃した、台風ヤギ被害への緊急支援を行いました。北部におけるAEFAプロジェクト校の状況はCSDを通して把握し、また、この状

況を日本でもお伝えしたことによって、強風による屋根の破損や本や備品の浸水被害を受けた学校に、迅速に支援を届けることができました。学校建設や図書館プロジェクト期間終了後も、先生たちとのネットワークを大切に築いてきたからこそその対応だったと考えています。

ドンズー日本語学校との連携で継続してきた南部チャビン省における青葉奨学金の給付は、資金と現地における人手不足により継続が困難となり、現地とも協議して今年度より一旦休止としました。

## ラオス

学校建設は、これまでのAEFAプロジェクトの中でも最も山奥にある南部サラワン県ラロ小学校が完成し、竣工確認することができました。ラロ村はベトナムとの国境沿いにあり、麓から徒歩2時間、川の渡渉もありアクセスが困難な村です。プロジェクトを特定した寄付を決めることはできませんでしたが、企業・個人・学校からの多くの皆様からの一般寄付金の積み上げによって実現することが出来ました。ラロ村のように最も遠隔地にある山岳少数民族の子どもたちへのプロジェクトは、AEFAの活動の原点です。今後も、AEFAの活動へのご理解とご賛同をいただき、こういった地域の子どもたちへ必要な学びを届けられるように活動してまいります。

ラオスは経済危機が長期化し、インフレによる生活苦のため特に男子高校生が中退して出稼ぎや農作業など働きに出ざるをえない状況が続いています。先生たちも生活苦で、住環境の整備となる教員寮の建設支援や、食糧支援となる養魚池の建設等、現地のニーズに沿ったきめ細やかなAEFAならではのプロジェクトを実施しました。

図書館建設と読書啓もう活動(キャンドルライツライブラリー)は、2023年度プロジェクト南部サラワン県の中高校2校で今年竣工し、新年度9月より順次開館しています。11月にはご支援頂いた方々が訪問して開館式と交流会を行いました。学校は伝統的なバーシーの儀式、ちまきなど手作りの軽食や花束、野菜のブーケなどを準備して歓迎しました。幼稚園児、地域の方々、教育関係者などが多数参加して支援者のみなさんと一緒に歌やダンス、綱引きなどを楽しみ、心と心の交流を深めました。

ラオスの図書館の特徴として、生徒が図書委員として活動していることがあげられます。図書館利用のルールを作ったり、本の登録作業をしたり貸し出し簿を作成するなど、ラオスのパートナーNGOスタッフのサポートも得て、生徒が中心となって行っています。活動を子ども中心・子ども参加型で行うことは、ラオスで継続してきたCRP(Child Rights Promotion)の理念に基づいています。子どもたち特に女子生徒にとっての、大切な居場所となっています。

先生基金・奨学金は、本年は3名が教員養成校等を卒業、3名の学び(チャンパサック県やビエンチャンの大学)を支援しました。一方で、奨学金第2期生のサヴァン・サイポンティラッ君は未だボランティア教員のままで、政府からの給料は無いままですが、キャッサバを栽培しながら一生懸命学ぶ子どもたちのために教員を続けています。こういった献身的な先生のサポートも、先生基金を通じて実施することが出来ています。

## スリランカ

2024年秋に新しい大統領が選出され、国家の財政危機に伴う経済危機から回復の兆しにある中、今年は3校(西部1校、南部2校)を建設支援しました。10月にAEFAとして3校を訪問して完成を確認したほか、コロナの間に竣工した既存建設校3校も訪問し、子どもたちの毎日の清掃などを通じて、校舎が大変清潔に保たれ大事に使われている様子を確認しました。また、子どもたちや先生方のインタビューを通して、学校建設後の学びの充実を実感することができました。

今年の建設校のうち2校をご支援頂いた方々も10月に訪問して、それぞれ開校式と交流会を開催しました。言葉の壁を越え、あっという間に子どもたちと仲良くなる様子は、まさにAEFAプロジェクトの原点である一人一人顔の見える交流と参加型を表すものでした。

スリランカのパートナーとしてプロジェクトを支えてくださっているのは、スリランカにおける日本語教育の第一人者であり実業家でもあるダヤシリ氏とご息子のクムドゥ氏及びコロombo・ロータリークラブのみなさんです。

同じ志をもちスリランカと日本の「生きるかけはし」であるみなさんの協力があつてこそ、プロジェクトを実施することが出来ています。今後も、人と人とのつながり、草の根の人間関係を大切に活動してまいります。

## その他

マレーシアでは、引き続きセランゴール州にあるミャンマー出身チン族難民の学校であるCSOプチョン校(Chin Student Organization Puchong)の運営補助について、支援を行いました。

### <交流事業>

ベトナムのパートナーNGOであるCSDのメンバーを招聘し、「第15回AEFAフォーラム」を7月7日(日)東京のJICA地球ひろば国際会議場で開催しました。テーマは「山岳少数民族の教育現場から見えてくる未来 日本・ベトナム草の根対話」で、21世紀をともに生きるアジアの仲間についてもっと知りたいと考える90名の方にご参加いただきました。この後、東京と大阪の、長年継続してご支援いただいている組織を訪問しました。支援者を訪ねて対話することで多くの気づきがあり、更にお互いの理解を深めることができました。7月

14日(日)には、山形県IYEO及び在山形ベトナム人協会(MSY)の協力で、「図書館のいまとこれから」をテーマとしたワークショップを開催し、新たな仲間との協力関係を築くことが出来ました。また、CSDメンバーとともに山形市南小学校、山形県西置賜郡小国小学校を訪問して、国際交流をテーマにした授業を実施するとともに、図書室の様子を視察し、その運営についてもじっくりと話す機会を得ることができました。子どもたちによる読書委員の活動の様子は、ベトナムの図書館の活動における「子ども参加型」のヒントとなりました。また、学校図書室の他校との連携や市立図書館との連携に加え、地域の保護者たちによる読書活動への深い関与はCSDメンバーの印象に深く残りました。というのも、ベトナムの山岳少数民族地域においては、そもそも保護者世代に教育が十分でなかったこともあり、読書活動への関与は未だ薄いところがあります。こうした状況を改善していくための大きなヒントになりました。また、国際交流授業で山形の子どもたちは初めて出会う“ベトナム“に興味をもち、大変意欲的に参加しました。直接会って積極的に交流できたことはCSDにとっても大きな刺激となり、今後のプロジェクトを通してベトナムと日本の子どもたちの国際交流の可能性を検討していきます。

10月、東京都「杉並区いきいきクラブ連合会」主催の講演会で、谷川がAEFAの活動を紹介しました。同じく10月に「第2回エルセラーン平和サミット」が行われ、CSD代表アインさん、坪井、金子がオンラインで参加し、ベトナムにおける建設校の子どもたちが夢に向かって学んでいる姿を報告しました。また、3月23日及び12月7日・14日・21日に「エルセラーンフェスティバル」が開かれ、亀井、金子、佐川がそれぞれ参加してスリランカとラオスの国際ボランティア報告を行いました。

学校での出前授業は、長野市大岡小、府中市第二小、府中市小柳小、山形市南小、山形県西置賜郡小国小で対面にて行い、日本の学校で実施してきた「出前授業」は累計768回となりました。

#### <広報活動>

ホームページの更新、ソーシャルメディア(FacebookおよびInstagram)による発信、会報37号と38号を発行しました。会報の編集やレイアウト、ホームページとの記事の連動や更新にあたっては、プロボノ(職業上のスキルや経験を活かして取り組む社会貢献活動)の皆さんによって進められています。12月には「会報を読む会」をオンラインで開催し、参加者がそれぞれの気づき、もっと知りたいことについて共有し、AEFAの活動や現地の状況について理解を深めました。AEFAにとっても双方向のコミュニケーションとなる「会報を読む会」は、今後も定期的で開催していきます。

#### <資金調達>

従来の寄付による活動資金の調達に加えて、2023年に開始した「マンスリーサポーター」(寄付プラットフォーム Syncable)は、AEFAフォーラムの参加者が加わるなど、少しずつ輪が広がっています。マンスリーサポーターとして参加することが継続的な支援となり、山岳少数民族の子どもたちの教育の「質」をさらに高め、変化の激しい現地のニーズに対応するための教育支援プロジェクト(奨学金、子どものリーダーシップ育成、栄養改善など)を行うための活動を支えることに繋がります。リーフレットの配布などAEFA会員の方々も参加型で、共に広めていきたいと考えます。

## 2. 収支および資産、会員の概況

#### <収支および資産の概況(単位:千円) 千円未満切捨>

当期収入額	59,310	=一般寄付 56,306+会員会費 1,125+補助金 300+その他 1,578
当期支出額	72,072	=建設事業費 64,100+交流事業費 2,948+管理費 5,023
当期事業収支	△12,761	
期末正味資産	47,608	

当期収入額には、来期以降のプロジェクト費用となる、建設積立金を含みます。

#### <会員の概況>

会員数:個人会員 116名(うち正会員 44名)、法人会員 6社(うち正会員 2社)  
会費収入は昨年比80千円減の1,125千円。

### 3. 事業支出内訳

事業支出の内訳は以下のとおりです。

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (単位:千円)
建設事業	① <学校建設> ベトナム・ラオスの山岳地域の学校および図書館建設 (読書啓もう活動を含む)  ② <教育支援プロジェクト> ベトナム BookWorm 読書活動 台風ヤギ被害緊急支援 ラオス 教員寮・井戸建設  ③ 児童生徒奨学金及び 教師育成事業	2024.1.1 ~ 12.31	① 3カ国 6校 6館  ② ベトナム ラオス  ③ ラオス	4名	① 児童生徒及び 地域住民: 合計約 3,000 名  ② ベトナム児童 及び地域住民: 合計約 1,500 名 ラオス教員、生徒 及び地域住民: 合計約 1,000 名  ③ ラオス教員養成校、大学他 3 名	64,100
交流事業	① 日本国内出前授業: 計 5 回(累計 768 回)  ② ワークショップ	2024.1.1 ~ 12.31	① 日本 5 校  ② 山形	4名	① 各回: 約 35 名~80 名 合計:約 500 名  ② 80 名	2,948